

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク和田町保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区1-13-1 朋和ビル 1階
設立年月日	平成19年4月1日
評価実施期間	平成25年7月～25年9月
公表年月	平成26年5月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><b>【施設の特徴】</b></p> <p><b>1.立地面の特徴</b> 相鉄線和田町駅から商店街を国道16号に向かって進み、16号に出る寸前を右に折れた閑静な住宅地に立地している。園舎は4階建てビルの1階部分を使用している。園から国道16号を渡ったところの丘陵は南傾斜地で、その近隣には大小様々な公園が点在しており子ども達の戸外活動の場になっている。</p> <p><b>2.概要</b> 平成19年4月に開設された定員60名（現在在籍70名）のワンフロアの保育園である。園庭では子どもたちがプランタンで数多くの野菜や果物を栽培し、成長の観察と共に食育指導の場にもなっている。 開設当初より毎月第一土曜日に園舎を開放し地域子育て支援「すくすく」を開催している。</p> <p><b>【特に優れていると思われる点】</b></p> <p><b>1. 保護者との対話重視</b> 保護者との個別面談を年2回（6月と12月、その他希望者は随時）、クラス懇談会を年5回開催している。その他日常的には送迎時に積極的に話し合うことができるように、玄関の掲示板に「おはようせんせい」「さよならせんせい」として、その日の早番・遅番担当職員を顔写真入りで紹介している。 その結果として保護者アンケートでも「話しやすい雰囲気・態度」「保護者との面談の機会」の項目で100%の満足度を得ており、「園の情報提供」「お子さんの様子に関する情報交換」の項目では98%の満足度となっている。 6月開催の試食会では、参加者数は保護者総数60名中41名が参加するという盛況振りであった。自由意見からも保護者に対する園の現姿勢は、以前よりも向上したと評価されている。</p> <p><b>2. 移動が不自由な園舎内で職員連携による見事な保育運営</b> 園児在籍70名という中規模園で、園舎建物面積は1フロア317,04㎡（園児一人当たり4,5㎡）の中で、各保育室は全体面積から言えばやや広めに確保されているが、トイレ・シャワールームは各1箇所、廊下の面積は少なく、保育室が廊下に面しているのは1、2、4歳児のみである。</p>	

保育活動での移動（散歩・外遊び、講師来園による体操・英語・リトミックなど）、その他職員の食事準備・片付けでのワゴン移動、子どもの状態に配慮しながらのトイレ誘導などについて、事前に職員会議等で十分検討し、その上で全職員はクラス毎の時間帯別プログラムを把握し、その都度全体の動きを見ながら職員同士声を掛け合って保育をしている。

### 【特に改善や工夫などを期待したい点】

#### 1.地域への子育て支援活動「すくすく」の活性化

開園当初より毎月第一土曜日に園舎を開放し、地域への子育て支援活動として「すくすく」を行ってききましたが、昨年後半より参加者が減少しています。（以前は定員10組を超える申し込みがあったが、現在参加は1～2組程度）

地域子育て支援拠点「こっころ」との連携を強化して「すくすく」への参加者を増やすことによって、地域に対する子育て支援活動を活性化していくことが期待されます。

#### 2.苦情・要望の収集とデータの活用

保護者と良好な関係が築けており、日常の会話から意見や要望を汲み取る努力をされていますが保育の質の向上のためにも、さらに保護者からの苦情や要望などを積極的に吸収するため、「入園のしおり」、および園の玄関掲示板に「和田町保育園としての苦情受付窓口担当について」を記載されることが望まれます。

また、日常寄せられる意見や運営委員会、クラス懇談会や個人面談などでの要望・相談事項窓を集約し一つのファイルにまとめて、全職員が周知し、話し合う機会を持ち再発防止や保育の質の向上に役立てていくことが期待されます。

### 評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の運営理念は「安心・安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービス」であり、基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」とし、園目標は「元気に育て心と体」として、子どもを尊重したものとなっている。</li> <li>・業務マニュアルに、子どもとの話し方・接し方の規定があり、全職員が周知している。</li> <li>・全職員は入社時、個人情報取り扱いや守秘義務についての研修を受講し、周知している。職員会議においても、個人情報の取り扱いについて確認している。</li> </ul>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育課程に基づいて、年齢ごとの年間指導計画・月間指導計画・週案を作成している。成長や様子を良く見て、子どもの希望も取り入れるなど柔軟性を持たせている。</li> <li>・保育室は一部屋を低い棚などで区切り2クラスで使用している。0歳児クラスには畳を敷き、低月齢の遊びの空間を作っている。1歳児クラスは衝立やマット、机を利用して小集団でコーナーを作って遊べるようにしている。</li> <li>・3歳未満児、特別な課題のある幼児は個別指導計画があり、発達状況により柔軟に変更・見直しを行っている。</li> <li>・子ども一人ひとりが興味や関心を持って遊べるように、職員は一緒に遊びに入りながらそれぞれの子どもの気を配り、言葉をかけて遊びを援助している。</li> <li>・子ども同士のけんかでは、危険がないように見守りながら、4～5歳児では最初のきっかけや双方の話を聞き、自分たちで解決できるように話し合いをさせている。</li> <li>・3歳児から月に一回「クッキング保育」を取り入れている。給食時には4歳児から当番を決めてエプロン・三角巾を付けて配膳を行ったり、調理ではソラ</li> </ul>

	<p>マメの皮むきの手伝いをするなど食材の下ごしらえを手伝い通常の食事作りの過程にも関心が持てるようにしている。食に関する絵本や紙芝居、手遊びを取り入れ、乳児から食に関する関心を高めるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の後には、アンケートを実施し、行事の内容等と共に、要望・意見を聞いている。結果については集計し園だよりに掲載している。年度末には1年間を振り返るアンケートを実施し、要望を把握している。</li> <li>・3歳以上の子どもたちは、地域の図書館に定期的に出かけて、地域の人々と交流を図っている。また、商店街のフリーマーケットへの参加・買い物などに出かけている。</li> </ul>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児は個別の「連絡ノート」で毎日子どもの様子を伝えている。3歳以上も希望者は自由記述式の連絡ノートを使用している。</li> <li>・年間指導計画は3ヶ月ごと、月間指導計画は1ヶ月ごとに担任間で話し合い、子どもの発達・状況に応じ、次月の計画を作成している。一人ひとりの成長過程の把握が必要な場合は保護者と相談しながら進めている。</li> <li>・入園時に保護者から提出された「家庭調査票」、入園前面談時の「面談シート」を基にして決められた書式として「児童票」を作成している。入園後の身長・体重の記録（「健康ファイル」）と共に事務室の施錠できる場所に保管し全職員がいつでも確認できるようにしている。</li> <li>・配慮が必要な子ども・障がいのある子どもについては職員会議、リーダー会議で報告・検討が行われ個別ケース記録がある。</li> <li>・虐待対応マニュアルがあり、定義は全職員に周知されている。日常の保育の中で、子どもの心身の状態観察や保護者の様子にも気を配っている。</li> <li>・業務マニュアルに「クレーム対応」があり、第三者委員も交えて対応する仕組みができています。第三者委員とは園の行事に呼んだりして、保護者にも積極的に紹介し、相談がしやすい雰囲気を作っている。日常寄せられる意見については園長・主任に報告し、迅速に検討・対応に努め、保護者にプリントや掲示で経過や結果を逐次お知らせするようにしている。</li> <li>・年2回の健康診断と年1回の歯科健診を行い、子ども一人一人の健康診断・歯科健診の結果は「児童成長記録」「健康ファイル」に記録されクラスごとに保管している。前もって保護者から「聞きたい情報」を確認し、受診時医師に確認して主任が健診結果の書面に記載し、回答している。</li> <li>・地震対策として突っ張り棒やボルトなどでロッカーや家具などは固定し、転倒防止策を講じている。2才児以上の保育室内に折り畳みの防災ヘルメットを常備している。保護者は園の携帯電話に電話番号・メールアドレスを登録し災害時伝言板を利用することができる</li> </ul>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月子育て支援事業「すくすく」を開催し、参加者に園庭やプール、保育室を開放している。</li> <li>・保土ヶ谷区地域子育て支援拠点（こっころ）に園のパンフレット・「すくすく」の案内を置いている。近隣商店に行事案内をし、参加や協力をお願いをしている。</li> <li>・地域の図書館を利用したり、商店街に買い物に行ったり、地域の「愛護会」が主催している「花が絶えないきれいな公園づくり事業」に5歳児が参加し園で育てた花を公園に植えている。</li> <li>・ボランティア受け入れのマニュアルがあり、受け入れに当たって職員や利用者に説明している。最近では横浜国大のサークルのボランティアを受け入れ、折り紙などを園児一緒に行っている。</li> </ul>

<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就業規則」で職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知している。設置法人本部にコンプライアンス委員会が設置されており、職員および各園の倫理・法令順守の指導・監督を行っている。不正などは弁護士に直接連絡できる仕組みがあり、連絡先は職員の更衣室に掲示してある。</li> <li>・設置法人のホームページ上で決算、運営状況について公開している。</li> <li>・園のパフレットは保土ヶ谷区役所に置かせてもらっている。設置法人の作成するホームページには園の様子や子どもの様子を紹介し、広範囲に閲覧できるようになっている。</li> <li>・理念・基本方針を玄関に掲示してあり、職員は常に目にしている。</li> <li>・園長は職員会議・リーダー会議などで、理念や基本方針に基づいた保育が実践されているかについての話をしている。</li> <li>・年に5～6回「運営委員会」およびクラス懇談会を開催し保護者と継続的に意見交換を行っている。行事ごとのアンケートや年度末にアンケートから保護者の意見を把握している。</li> <li>・事業運営に影響のある情報は設置法人で収集・分析している。園独自でも保土ヶ谷区の行政関係機関や地域の広報、インターネットなどで情報収集している。</li> <li>・平成24～28年度の中長期計画がある。「心と身体の自立を促す」「地域に根ざした保育園」「豊かな人間性を持った子どもを育成する」を掲げている。</li> <li>・設置法人は運営について関連機関や大学、行政など専門機関から意見を収集し運営に活かしている。</li> </ul>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生受け入れは園長・主任が行い、事前の話し合いで、実習の目的とその方法について聞き効果的に行なわれるように計画をしている。中間と最終日には園長が話を聞き、意見や感想を書いてもらっている。</li> <li>・設置法人本部は年間研修計画を作成し、職員は「個人別年間研修計画」を立て研修に参加している。非常勤職員も研修に参加できる体制になっている。</li> <li>・年間指導計画・月案・週案・保育日誌にそれぞれ評価・反省の記入欄があり個別案や成長発達記録の記録を定型化された書式に記録している。子どもの育ちや意欲、取り組むプロセスを重視して振り返りを行うように心がけている。職員によって記入のばらつきがないように園長も書き方や視点を指導している。</li> <li>・設置法人が「保育士人材育成ビジョン」を作成し経験・能力に応じた役割水準が明文化されている。</li> <li>・園長は年2回常勤職員との面談を行い、満足度や要望などを把握し記録している。またいつでも面談は受け付けている。</li> </ul>

# 評価機関による評価（アスク和田町保育園）



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

## 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の運営理念は「安心・安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービス」であり、基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」とし、園目標は「元気に育て心と体」として、子どもを尊重したものとなっている。</li> <li>・運営理念と園目標は、職員・保護者の目につく玄関に掲示している。職員は入社時に設置法人の研修で基本方針を学び、入社後は職員会議や日常の業務の中で、全職員が確認している。</li> <li>・保育課程は、保育理念、保育所保育指針に基づき、発達の特性を踏まえて子どもの最善の利益を第一義に作成されている。</li> <li>・保育課程に基づいた指導計画、指導方針は年度初めの運営委員会やクラス懇談会で保護者に説明している。見直しがあった場合には運営委員会およびクラス懇談会で説明するようにしている。</li> <li>・職員は子どもの意見や要望を丁寧に聞き、態度や表情などからも意思を汲み取るようにして、月間指導計画などに反映させている。子どもたちの要望の中で、雨の日散歩、水筒持参散歩、絵本を参考にした遊びなどを取り入れている。</li> </ul>
<p><b>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とは入園前に、園長・主任・各クラスリーダー職員による面接を行っている。必要に応じ栄養士も同席している。面接時に子どもも一緒に来園し、遊んでいる様子などを観察し「入園前面談シート」に記入し、「家庭調査票」をもとに、生育歴・健康状態・家庭状況を聴取・記録している。</li> <li>・ならし保育を希望する保護者には、個別事情を勘案の上、一定期間行っていただくように配慮している。</li> <li>・職員は担任以外の子どもたちにも日頃から声掛けするなど努めており、進級時は担任の一人は持ち上がるようにして、園児が不安にならないよう配慮している。</li> <li>・3歳未満児は個別「連絡ノート」で毎日子どもの様子を伝えている。3歳以上も希望者は自由記述式の連絡ノートを使用している。</li> <li>・年間指導計画は3ヶ月ごと、月間指導計画は1ヶ月ごとに担任間で話し合い、子どもの発達・状況に応じ、次月の計画を作成している。</li> <li>・トイレトレーニング・箸を使う時期・離乳食など、一人一人の家庭での状況や成長過程の把握が必要な項目について、保護者と送迎時に話したりや連絡ノートで相談しながら進めている。</li> </ul>

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・各保育室には扇風機・加湿器・空気清浄器がある。適宜窓を開放して換気し、気になる臭いはない。毎日、午前午後室温、湿度を確認し、季節や子どもの活動に合わせて快適な室温・湿度を保てるよう配慮している。
- ・2、3歳児と4、5歳児は、それぞれ一部屋を低い棚などで区切って使用しているが、職員は打ち合わせをし、お互いの活動や生活の妨げにならないよう移動や音楽や声の大きさに配慮している。
- ・温水シャワー付沐浴設備がある。0歳児は安全を考慮しベビーバスを使って沐浴している。おむつかぶれやおもらし、汗をかいたあと、泥んこ遊び、プールなどの後、沐浴やシャワーで清潔を保っている。
- ・0歳児クラスには置き畳を敷き、低月齢の遊びの空間を作っている。隣接する1歳児クラスは衝立やマット、机を利用して小集団でコーナー遊びができるようにしている。
- ・朝・夕の延長保育時間や土曜日に異年齢児が合同で過ごす場合などには、保育室の衝立・机などを動かして遊びのスペースを広げ、動きのある遊び、静かな遊びなど遊びの形態別にレイアウトを工夫している。

### I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・3歳未満児は月ごとの個別指導計画を作成している。特別な課題がある幼児についても、個別指導計画を作成している。
- ・その作成にあたっては、当月の目標や前月の評価・反省に基づいて先ずクラス担任で作成し、月1回の職員会議・週1回のリーダー会議で子どもの発達状況や様子などを話し合い、柔軟に計画の変更・見直しを行っている。
- ・重要部分の見直しについては、保護者に説明している。
- ・入園時に保護者から提出された「家庭調査票」、入園前面談時の「面談シート」を基に決められた書式として「児童票」を作成している。
- ・入園後の子どもの成長について月1回身長・体重測定の際「児童成長記録」を「健康ファイル」に綴じ込み、クラスごとに保管している。
- ・ファイル類は事務室内の施錠できる場所で保管しているが、職員は必要に応じ確認することができる。
- ・進級時には、個人別ファイルを基にして丁寧に引き継ぎをしている。保育所児童保育要録は入学先小学校へ直接園長が持参している。

### I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・配慮が必要な子どもについて、職員会議、リーダー会議で報告・検討が行われ個別ケース記録がある。

・園舎はワンフロアで、玄関は段差がなく、車いす用トイレがある。障がい児も積極的に受け入れる体制がある。

・子どもの対応について保護者の同意を得て専門機関からのアドバイスを得ている。

・日常保育では障がいのある子は無理の無い範囲内でクラス内で他の子どもたちと交わっている。障がいのある子どもと他の子どもとの関わりあいでは、誰でも、得意な事や不得手な事があること、お互いに相手を認め合う大切さを子どもに伝えるよう努めている。

・虐待対応マニュアルがあり、定義は全職員に周知されている。日常の保育の中で、子どもの心身の状態観察や保護者の様子にも気を配っている。

・虐待の疑いがあるときは園長に報告後、リーダー会議・職員会議で全職員へ報告を行い、ケース記録を残し、場合により写真も残し、関係機関と連携がとれるようにしている。

・食物アレルギーについては毎日の献立に沿ったアレルギー一覧表を掲示し担当職員が確認し、食事の提供時・配膳時には複数の職員で声掛けとチェック表で再確認し、名前入り色別トレイ・名前が書かれたラップを使用している。食事の際、職員がアレルギー児に付き、またクッキング保育の際にもそばに付くことで誤食を防いでいる。

・外国籍の子どもで文化や生活習慣の違いがあっても、職員は自然な態度で接し、必要に応じて子どもたちに分かりやすく話し、仲立ちとなって説明するようにしている。日本語が得意でない保護者については手紙や連絡事項をローマ字で書いたり、ゆっくり分かりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されているかを再度確認するようにしている。

評価分類	aru
<p><b>I-6 苦情解決体制</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園への要望・苦情受付担当は園長が担当している。設置法人苦情窓口の案内は「入園のしおり」、ホームページ、園内に掲示・入園説明会などで保護者に説明している。</li> <li>・第三者委員は地域の民生委員にお願いしており、氏名・連絡先を玄関廊下正面に掲示している。</li> <li>・ご意見箱、各行事終了後アンケート、クラス懇談会、個人面談などを要望や苦情を聞く機会としている。また送迎時にできるだけ色々な職員が保護者と話をし、話しやすい雰囲気をつくることを心がけ、意思を汲み取るように心がけている。</li> <li>・苦情相談窓口として「保土ヶ谷区役所 こども家庭支援課」の連絡先および「かながわ権利擁護相談センター」のポスターを掲示している。</li> <li>・日常寄せられる意見については園長・主任に報告し、迅速に検討・対応に努め、保護者にプリントや掲示で経過や結果を逐次お知らせするようにしている。</li> <li>・苦情・要望はクレーム受理票に数件の記録しかなく、データを蓄積・整理の上解決に活かしているとは言い難い。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;  「入園のしおり」に園の苦情担当連絡先を記載されることが望まれます。また日常寄せられる保護者からの意見や要望、苦情について記録に残し、再発防止と共に今後の保育に活かしていくことが望まれます。</p>

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体的な活動を尊重して、2～5歳児保育室にはオモチャ、絵本は子供の手が届くところに置かれ、自由に取ることができるようになっている。</li> <li>・子どもの自由な発想の採択では、ハロウィンの仮装を子どもたちの希望で「魔女」になって商店街を回ったり、2～5歳児の異年齢グループではお店屋さんごっこで子どもたちの希望に応じて「ジュース屋」「おにぎり屋」「果物屋」「魚屋」などで集団で遊んだ。</li> <li>・植物の栽培では、園庭にプランターを置き、1歳（とまと）、2歳（ピーマン）、3歳（キュウリ）、4歳（ゴーヤ）、5歳（トウモロコシ）を栽培し、成長の観察と共に食農・食育活動も伴っている。</li> <li>・子どもたちは派遣講師によるリトミックや英語・体操を楽しみ、3歳児以上では保護者や職員が家庭から持ち寄った廃材を使って、自由な発想による制作活動を行っている。</li> <li>・子ども同士のケンカでは乳児のオモチャの取り合いなどでは直ぐ間に入り、取った方の子どもに「オモチャ貸してね」というように優しく言い聞かせたり、幼児にはお互いの気持ちの理解ができるように話し合いを見守るなど、ケースごとに対応している。</li> <li>・ほとんど毎日プール遊びや公園などへの屋外活動を積極的にとり入れ、子どもたちの健康増進を図っている。</li> </ul> <p>&lt;工夫している事項&gt;  ・廊下に散歩コースだけでなく公園ごとに遊具などの写真を貼ったお散歩マップを掲示し、年齢で遊具やルートを選択したり、桜やチューリップなど季節の花を目当てに公園を選択し散歩している。</p>

## Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・子どもたちが食事を豊かに楽しむために、職員は一人一人の食事量、好き嫌いを把握して盛り付け時に調整し、全員が完食の喜びを味わうことができるように努めている。
  - ・2歳児以上のクラスでは職員も一緒に食事をして、子どもの様子を観察し、残量記録とコメント、食事状況の保育日誌記録など状況を把握して、毎月開催の給食会議で盛り付け・味付けなどの意見交換をしている。
  - ・給食では毎月の行事食で、7月は季節感ある「七夕ランチ」で楽しんだ。
  - ・3歳児以上の月1回のクッキング保育では、クッキーや焼きそばづくりを行い、調理・配膳・片付けなどを行い、食への関心を高めている。
  - ・家庭との連携面では離乳食・幼児食の献立を保護者に配付し、離乳食等は必要に応じて栄養士が保護者と相談している。
  - ・子どもの排泄面では、トイレトレーニングは保護者と緊密な連携の上に行っている。
- <工夫している事項>
- ・6月に給食試食会を実施し、参加者（41名）に人気のメニューを試食してもらい、だしや味付け、食材の切り方など園で工夫していることを伝えている。給食試食会前に「食に関するアンケート」を実施し試食会当日に回答書を配付するとともに、参加できなかった保護者にも配付した。離乳食を試食したいという希望にも対応した。

## Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・子どもの健康管理は、健康管理マニュアルに基づいて、子ども一人一人の健康状態を把握し、既往歴・予防接種状況などを個人ファイルに保管している。子どもの保育中の健康状態については、必要に応じて連絡ノートに記載するとともに送迎時に口頭で伝えている。連絡ノートのない子どもにおいても気になることがあれば、担任が送迎時に口頭で伝えている。
  - ・1歳児から毎食後歯磨きを行い、5歳児まで職員が仕上げ磨きを行っている。歯磨きの大切さを知り、進んで歯磨きをするように5歳児は歯科健診後赤染をしたり、「かばのはいしゃさん」などの絵本を読んでいる。
  - ・年2回の健康診断と年1回の歯科健診を行い、子ども一人一人の健康診断・歯科健診の結果は「児童成長記録」「健康ファイル」に記載されクラスごとに保管している。検診日に欠席した保護者に、個別で受診を依頼し全園児が受診している。毎月行う身体測定の結果については、乳児は連絡ノートに記載し、幼児はシール帳の記入欄に記載して、保護者に報告している。
  - ・感染症対応では、入園のしおりに詳しく記載して周知し、地域や園内での感染症発症の情報は即日掲示して、注意事項と共に保護者に知らせている。
- <工夫している事項>
- ・健康診断・歯科健診の結果は、書面で渡して、送迎時など口頭でも伝えている。更に健康診断・歯科健診前に保護者から「聞きたい情報」を確認し（20名程度あり）、受診時医師に確認して主任が健診結果の書面に記載し、回答している。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルが整備されており、施設・設備・玩具などの清掃消毒方法が明記され、職員は入社時に研修を受けている。
- ・衛生管理マニュアルの改定は、年に一度職員の見を集約して園長会議に持ち寄り、設置法人本部で毎年定期的に見直し、その内容は職員会議を通して全員に周知されている。
- ・保育室・おもちゃなど日々マニュアルに添って清掃が行われ、「保育室清掃記録表」に記録され衛生管理が適切に行われている。

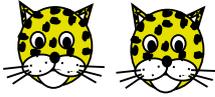
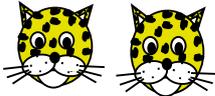
## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・地震対策として突っ張り棒やボルトなどでロッカーや家具などは固定し、転倒防止策を講じている。棚の上にラジカセなどを置く場合は滑り止めシートを使用している。2才児以上の保育室内に折り畳みの防災ヘルメットを常備し、毎月地震・火事を想定した避難訓練を行っている。
  - ・安全管理はマニュアルに基づいて「安全チェック表」を作成し毎日確認している。他園の安全委員会の委員が、来園しチェックして、それぞれの園の安全を年に3回確認し合っている。
  - ・緊急連絡体制が確立され、事務室内に医療機関等の一覧を掲示し、保護者は園の携帯電話に電話番号・メールアドレスを登録し災害時伝言板を利用することができる。6月に伝言板を確認する訓練を行った。
  - ・保育中のケガは、小さなケガでも園長に報告して保育日誌に記録し、保護者にも連絡ノートや口頭で必ず報告している。病院への受診が必要な事故・ケガの場合、保護者へ報告すると共に、設置法人本部への報告を行っている。
  - ・外部からの侵入に対する対応策として、玄関は電子錠になっていて、常に施錠され来園者を確認してから解錠し、不審者の侵入を防止している。警備会社と契約し、防犯カメラ、通報ベルが設置され緊急通報体制等が確立している。散歩の時も緊急通報装置を携帯している。
- <工夫している事項>
- ・クラスごとにインシデントレポートを作成し保育日誌にファイルし、重大事故につながる可能性がある「ヒヤリハット」については最悪の事態について考え、対応策を検討し、職員会議で報告されている。
  - ・昨年は警察と連携し、不審者侵入の訓練を行い、その後園児に対して「防犯についてのお話」をしてもらった。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅱ－３ 人権の尊重</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと話をするときには、目線を合わせ、注意する場面でも子どもの自尊心を傷つけないように配慮し、年齢や発達にあった言葉を使い、子どもの気持ちを聞いて対応している。職員会議においても子どもの名前を呼び捨てにしないなど確認し合っている。</li> <li>・個人情報の取り扱いや守秘義務について全職員が入社時研修を受講し、周知している。職員会議においても、個人情報の取り扱いについて常時確認している。入社時、全職員が守秘義務順守の誓約書を提出している。園内での個人情報に関する記録は事務所内に施錠保管している。</li> <li>・個人情報の取り扱いについて、入園時保護者にも説明し、ホームページなどへの子どもの写真掲載については書面で承諾を取っている。</li> <li>・子どもたちに対して性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう、職員は、遊び、役割、持ち物などに男女の固定観念を持ち込まないように留意している。園内での性別による区別は見られない。</li> </ul>
<p><b>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の基本方針や理念は入園説明会や年度初めの運営委員会、クラス懇談会で保護者に対し説明している。園目標は園だよりに記載し、玄関に掲示しいつでも目に触れるようにしている。</li> <li>・個々の保護者との日常的な情報交換は、登園時に家庭での様子を聞き、降園時には子どものその日の様子を伝えるように努めている。</li> <li>・個別面談を年2回行い、日程は保護者に希望を聞き保護者の都合に配慮している。更に個別面談の希望があればいつでも対応している。</li> <li>・保護者からの相談は、送迎時に相談を受けた職員が、適切に対応できるように園長・主任が助言できる体制になっている。必要に応じて栄養士と面談も行っている。</li> <li>・園で「園だより」「クラスだより」「給食だより」を、設置法人で「保健だより」「英語だより」「リトミックだより」を毎月発行し、子どもの活動の様子を伝えている。日常の保育の様子など各クラスが折に触れて写真を撮り、委託事業者のホームページから購入することができるようにしている。園生活のビデオは年度末の運営委員会で上映し、ホームページは主任が更新を担当し毎月更新している。</li> <li>・年度始めに年間行事予定表を配布・説明し、保護者が参加しやすいように配慮している。保育参観は、年に2回行い、10月から12月まで毎月2日間保育参加の日を設け参加を受け付ける予定になっている。</li> <li>・保護者有志が運動会やクリスマスに飾り付けなどのお手伝いをするときには、保育室を提供している。その際、職員に対し応援依頼があった場合は参加している。</li> </ul>

### 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入しており、催し物に参加したり、近隣の商店街との交流がある。毎月子育て支援事業「すつくすく」を開催している。</li> <li>・「育児相談」を設けているが活用が少なく、子育て支援ニーズを把握するにはいたっていない。</li> <li>・地域住民にむけて講習会などを開催したいが、実現できていない。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;            地域とのつながりや子育て支援事業「すつくすく」を通じて、地域の子育て支援ニーズの把握に努められること、また保育の専門知識を活かした講習会などの開催が期待されます。</p>
<p><b>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に対して設置法人と横浜市のホームページで保育園を紹介し、保土ヶ谷区地域子育て支援拠点「こっころ」に園のパフレットと「すつくすく」の案内を置いている。また園の行事ごとに近隣商店にも案内し、地域に開かれた園の実現に努力している。</li> <li>・「地域の社会資源一覧」として、行政機関、学校、近隣の医療機関などをリスト化し事務所と廊下に掲示している。</li> <li>・子ども、保護者の状況に応じ、保土ヶ谷区福祉保健センター、西部療育センター、児童相談所などと日常的な連携ができています。</li> <li>・月に一回の交流保育「すつくすく」で育児相談を受け付けている。園入り口に「相談受付」の案内プレートがあるが相談日（最低週に一度）は決まっていない。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;            育児相談については「すつくすく」活動の活性化を図ることにより、参加者から育児相談を受け、その波が地域に浸透して、育児相談面で地域から頼られる園になることを期待します。</p>

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>・近隣との関係では、友好・親睦のため、また園の奉仕活動として毎朝職員が保育園周辺の清掃をしている。商店街の協力店にハロウィンなどの行事にも協力してもらっている。地域への協力面では、地域の「愛護会」が主催している「花が絶えないきれいな公園づくり事業」に5歳児が参加し園で育てた花を公園に植えている。その他行事で園外や公道を使用する場合は、事前に近隣の方に挨拶に伺い、勤労感謝の日には園児がプレゼントを作って、挨拶に行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援事業「すくすく」で、参加者に園庭やプールや保育室を開放している。</li> <li>・地域の文化・レクリエーション施設の利用面では、保土ヶ谷図書館を定期的に利用したり、お別れ遠足では乗り合いバスでこどもログハウスへ出かけるなど積極的に利用している。</li> <li>・地域の夏祭りに土曜保育の子どもたちが参加したり、近隣の小学校から運動会のお誘いの手紙が来るので、保護者に知らせて園児に参加を促して地域の行事に参加できるように配慮している。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に対する保育園の開放の一環として、園行事の広報活動をさらに活発化して、運動会その他各種諸行事に第三者委員だけでなく近隣住民を積極的に招くことを期待します。</li> </ul>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の作成するホームページには園の様子や子どもの様子、園のサービス内容や職員体制、料金など紹介している。園のパンフレットは区民に幅広く見てもらうように、保土ヶ谷区役所に置いている。</li> <li>・子育て支援組織「こころ」に「すくすく」などの情報を掲示し、子育て情報サイト「まみたん」のホームページにも園の情報を掲載している。</li> <li>・利用希望者の問い合わせや見学については、園長・主任がいつでも対応している。園の外壁に見学を受け入れている旨掲示し、設置法人のホームページや、横浜市のホームページに見学ができることを案内している。</li> </ul>
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア及び実習生受け入れのマニュアルがあり、ボランティア受け入れに当たっては職員や利用者に説明している。受け入れ前に玄関のホワイトボードや園だよりに記載し知らせている。受け入れ担当者は園長であり、受け入れ時の記録が整備されている。横浜国大のサークルのボランティアを受け入れ、折り紙などを園児と一緒にやっている。</li> <li>・実習生受け入れに当たっては、事前に話し合いの機会を設け、保育理念・方針、子どもや保護者への配慮、守秘義務を理解してもらった上で受け入れている。受け入れにあたっては全職員・保護者・子ども達に話し、また、名前と実習期間を玄関のホワイトボードに掲示し園だよりにも記載し伝えている。</li> <li>・実習受け入れは園長・主任が行い、実習指導担当職員が毎日の学びについて振り返りをして、翌日の実習がより効果的になるように援助をしている。</li> </ul>

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材構成面で不足するような場合は、園長が設置法人本部に連絡することにより、補充が行われている。</li> <li>・設置法人本部は「保育士人材育成ビジョン」を策定し、全社員を対象に年間研修計画を作成し、園長はそれに基づき年度初めに「個人別年間研修計画」を立て職員を研修に参加させている。非常勤職員も研修に参加できる体制になっている。</li> <li>・横浜市主催の研修、横浜女子短期大学主催の研修などにも積極的に参加している。</li> <li>・研修受講後、レポート提出、レポート回覧、職員会議での報告を行っている。また今年度受講者による園内研修（「遊びの中に潜む危険」「こどもの受容」）を行った。</li> <li>・非常勤職員は各会議に出席しないため、園長会議・職員会議・リーダー会議の内容については議事録の回覧を行い重要事項は口頭でも伝えている。</li> </ul>
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に3回の自己査定、年に2回研修に基づく自己評価を行っている。年に一度第三者評価に全職員で取り組んでいる。</li> <li>・園長会議で得た情報や新聞掲載事例を職員会議で話し合い自園での振り返りをし、スキルアップを図っている。</li> <li>・年間指導計画・月案・週案・保育日誌にそれぞれ評価・反省の記入欄があり個別案や成長発達記録の記録を定型化された書式に記録している。</li> <li>・子どもの育ちや意欲、取り組む課程を重視して振り返りを行うように心がけている。職員によって記入のばらつきがないように園長も書き方や視点を指導している。</li> <li>・必要に応じて、療育センター、設置法人本部の発達支援チームなどの指導を取り入れて指導計画を作成している。</li> <li>・職員は振り返りを通し、職員間で話し合うなどし、子どもの成長に合わせて無理をせず次月も引き続いて取り組むなど、計画作成に反映させている。</li> <li>・保育園としての自己評価は、保育指針に基づく横浜市の保育所評価基準によって行われている。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人が「保育士人材育成ビジョン」を作成し経験・能力に応じた役割水準が明文化されている。</li> <li>・業務マニュアルに「保育業務の基本」として、園長・主任・保育士・看護師・調理員の職務分担を明文化し、それぞれの役割が果たせるように権限の委譲をしている。</li> <li>・緊急時には担当職員が対応し、事後速やかに園長・主任に報告している。</li> <li>・職員は職員会議や園長との面談、年度末職員アンケートで改善提案しているほかに、日常的な会話や打ち合わせの中でも提案をしている。</li> </ul>

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就業規則」で職員の守るべき倫理・服務規程を明文化し全職員に周知している。設置法人本部にコンプライアンス委員会が設置されており、職員および各園の倫理・法令順守の指導・監督を行っている。不正などは弁護士に直接連絡できる仕組みがある。</li> <li>・設置法人のホームページ上で決算書、運営状況について公開している。</li> <li>・他施設での不適切事案などの情報は設置法人より随時連絡があり、園長会議で話題になったことは園に持ち帰って職員会議で話し合いをしている。事例によって全職員レポート提出する場合もある。</li> <li>・地域の子供会が行っている廃品回収に協力している。エコキャップの回収・新聞紙などの廃材利用の工作やおもちゃ作り・保護者間で子どもの洋服類のリサイクルを行っている。</li> </ul> <p>&lt;その他の工夫事例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の際には保護者に食器（皿、箸類、コップ）やおしぼりを持参してもらい、極力ゴミがでないようにしている。</li> </ul>
<p><b>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・基本方針を玄関に掲示してあり、職員は常に目にしてしている。</li> <li>・園長は職員会議・リーダー会議などで、日常行われている保育が、理念や基本方針に基づいて実践されているかについて話している。</li> <li>・年に5～6回開催される「運営委員会」および「クラス懇談会」で保護者と意見交換を行っている。行事ごとのアンケートや年度末アンケートから保護者の意見を把握している。</li> <li>・園の大切な行事（夏祭り、運動会、試食会など）の実施方法や準備などは、調理担当を含めた全職員で検討し取り組んでいる。</li> <li>・設置法人の研修に主任育成コースがあり計画的に主任育成が行われている。</li> <li>・主任は必要に応じてクラスに入り、個々の職員の様子を見ながら指導や助言を行っている。主任は職員の話をよく聞いてコミュニケーションを取るようにし、職員の心身の健康状態に気を配っている。</li> </ul>
<p><b>VI-3 効率的な運営</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営に影響のある情報は設置法人本部で収集・分析している。園独自でも保土ヶ谷区の行政関係機関や地域の広報、インターネットなどで情報収集している。</li> <li>・重要な情報は設置法人の園長会議、エリアマネージャー会議で話し合われている。</li> <li>・平成24～28年度の中長期計画がある。「心と身体の自立を促す」「地域に根ざした保育園」「豊かな人間性を持った子どもを育成する」を掲げている。</li> <li>・運営、サービスプロセスの新たなしくみは設置法人本部で検討し、実施段階で園に伝えている。</li> <li>・設置法人は運営について関連機関や大学、行政など専門機関から意見を収集し運営に活かしている。</li> </ul>

# 利用者家族アンケート

## 結果の特徴

1. アンケート回収率      対象総世帯数    60世帯、    回収世帯数    40世帯、    回収率    67%
2. アンケート結果
- ◇ 基本理念の認知率は75%であり、園だよりや懇談会等の場を利用して更に向上を図ることをご検討ください。
  - ◇ 入園したときの説明に対する満足度は高く、見学受け入れ項目のその他20%は、、見学に来れなかった保護者の数字です。
  - ◇ 保育園の年間行事計画は、保護者とのコミュニケーションが良くはかられ、93%の満足率は他園に比して高く良好です。
  - ◇ 日常の保育内容    遊びでは戸外活動の満足度は100%、生活では子どもの体調への気配りの満足度が100%など、総じて満足度は極めて高く示されています。
  - ◇ 安全対策では建物構造面から不審者対応などで不安が20%示されていますが、感染症対応では満足度が98%と高く示されています。
  - ◇ 園と保護者との連携交流・職員の対応関係では、園長はじめ職員各位の日常的な保護者とのコミュニケーション努力の結果、不満回答は殆どありませんでした。特に送迎時のお子さんに関する情報交換の満足度98%は全職員の努力の結果が示されています。
  - ◇ 総合満足度は95%でした。

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	20%	55%	8%	15%	2%	0%



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	73%	27%	0%	0%	0%	0%

## ■施設のサービス内容について

### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	55%	25%	0%	0%	20%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	55%	33%	5%	2%	5%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	48%	35%	5%	5%	7%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	60%	30%	8%	2%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	63%	33%	2%	2%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	63%	28%	5%	2%	2%	0%
	その他:					

### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	58%	35%	2%	5%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	53%	40%	0%	5%	2%	0%
	その他:					

### 問4 日常の保育内容について

遊びについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	73%	20%	5%	2%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	73%	27%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置 いてあるか、年齢にふさわしいかな ど)	68%	30%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなど の、園外活動については	63%	32%	5%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関 わりが十分もてているかについては	68%	28%	2%	2%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	65%	33%	2%	0%	0%	0%
	その他:					

### 生活について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	88%	10%	0%	0%	2%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるか については	85%	15%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗 いなど)の自立に向けての取り組み については	78%	18%	0%	2%	2%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じ て対応されているかなどについては	68%	30%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お 子さんの成長に合わせて柔軟に進め ているかについては	65%	18%	5%	2%	10%	0%
	その他:					
お子さんの体調への気配りについて は	75%	25%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者 への説明やその後の対応には	68%	25%	0%	5%	2%	0%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	43%	38%	17%	2%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰 囲気については	40%	50%	5%	5%	0%	0%
	その他:					

外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	50%	30%	13%	7%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	63%	35%	0%	2%	0%	0%
	その他:					

#### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	60%	40%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	68%	28%	0%	2%	0%	2%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	65%	33%	0%	2%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	58%	40%	0%	2%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	68%	30%	0%	2%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	63%	35%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	83%	17%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	78%	20%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	88%	12%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	65%	25%	0%	0%	10%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	75%	25%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	68%	28%	0%	2%	2%	0%
	その他:					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	68%	27%	5%	0%	0%

アスク和田町保育園  
利用者本人調査

◇0 歳児

(室内で)

職員は、月齢の異なる一人一人の行動や様子に目を離さず、注意を払っている。ぐずっている子どもを抱っこしながら、ベビーベッドで寝ている生後 2 か月の子どもの寝息をうかがって見守っている職員がいる。また、別の職員の傍らでは、這い這いで目当てのおもちゃに近づき、取ろうとして一生懸命手を伸ばしている子どもに、職員がやさしい声で「頑張って」と声援を送っていた。

(水遊び)

水遊びができる子ども 3 人は水遊び用の紙おむつと T シャツ、帽子を被り、玄関わきにたらいを置いてコップで水をすくったり、バシャバシャして目を細めている。職員は「雨だよー」と声をかけながらじょうろで水を足にかけている。やがて遊び終えた子どもから順番に一人ずつシャワーをした後、着替えて保育室に戻って行った。

(昼食)

テーブル付の椅子と 2 つのテーブルに 3 人ずつわかれて座り、各テーブルに職員が 1 名ずつついて「いただきます」をして食べ始める。子どもたちはスプーンや手づかみで食べていて、職員は「おいしいね～、そう、もぐもぐ」などと言葉をかけながら、子どものペースに合わせてご飯やおかずを口に運んで援助している。

(午睡)

パジャマに着替えて、部屋の明かりを落とし、布団の上から職員にトントンされたり、体をさすってもらったりして眠りにについている。眠れない子どもには職員が抱っこして背中を軽くトントンしている。職員は 5 分ごとに眠っている子どもの胸に手を当てて呼吸のチェックをしている。

◇1 歳児

(リトミック)

講師のキーボードにあわせて「い～と～まきまき～」と手遊びが始まった。その後も象さんになったり、蟻さんになったりしてリズムに合わせて走ったり歩いたりしている。みんな笑顔で動物になりきっていた。

(プール遊び)

子どもたちは、水遊び用の紙おむつと T シャツに着替え、保育室で体操した後、手を繋いで玄関まで来て壁際に座って待っていた。職員は水質検査をして順番に園庭のプールまで簀子の上を歩いて行く。プール際には水が顔にかかるのが苦手な子どもはプールの外から水を汲んだりあけたりして遊んでいる。プールの中ではじょうろや空き容器を使って水を掛け合ったりして遊んでいる。職員も子どもたちの様子を見ながら「〇〇ちゃん、雨だよー」と声をかけながら遊びに誘っている。

### (昼食)

1つのテーブルを囲んで子どもたちは職員の配膳を待ち、「いただきます」の挨拶をしてスプーンを持ったり、手づかみで食べ始める。自分で食べることが難しい子どもには職員が子どものペースにあわせて援助している。「みんなが作ったトマトだよ」と自分たちが育てたミニトマトがお皿に分けられると、手づかみで嬉しそうに口に運んでいた。プール遊びで疲れたのか食事の途中で眠ってしまった子どももいた。

### (午睡)

職員が分担して着替えと布団敷きを行い、眠そうな子どもから横になるよう促して順番に背中をさすっている。職員は子どもが入眠したときにその時間を記録し、10分ごとに呼吸チェックをしている。なかなか眠れない子どもには添い寝をしていた。

## ◇2歳児

### (リトミック)

子どもたちがそれぞれ好きな色の布を持ち、ふわふわ動かしながらクラゲになりきっている。大きなサメが来たと逃げ回ったり、「あーよかった」とゆっくり動いたり、講師のキーボードのリズムにあわせて体いっぱい表現していた。

### (プール遊び)

子どもたちは、水着に着替えて玄関で並んで座っていた。職員から「これからプールに行きます。お友達を押さない、順番を守る」など約束を説明すると、全員が元気よく「はい」と大きく返事をした。待ちかねていた子どもたちは、それぞれ大・中・小の好きなプールに入って、水鉄砲で水をかけたり、オモチャの金魚すくいをしたり楽しそうに遊び始めた。大きなプールではカエルのような恰好をして歩いている子が、顔にかかった水を手で拭いていると、職員から「〇〇ちゃん、顔に水がかかっても大丈夫になったね」と声を掛けられてにこっと微笑んでいた。

### (昼食)

4人ずつ1つのテーブルについて待っていた子どもたちが、全員に配膳が終わると元気よく「いただきます」の挨拶をして食べ始める。全部食べ終わった子どもから職員に「おかわりください」と声をかけ好きなものをおかわりしていた。

食事が終わった子どもから食器をワゴン迄お片付け。同じ種類ごとにお皿を重ねた後、手洗い場に並べられた椅子に座り歯磨きをはじめ、順番に職員に仕上げ磨きをしてもらっていた。それが終わると、マットの所で自分のパジャマを出して着替え始め、脱ぎ終わった洋服をたたんで自分の袋にしまっていた。

## ◇3歳児

### (プール遊び)

自分達で身支度を整えた後、職員と一緒に準備体操を始める。皆、足を伸ばしたり手首を回したりしている。「プールに入るお約束、覚えてる？」と職員に聞かれると「はい」「ひっぱっちゃいけない」「押してもいけないんだよ」と一斉にこたえている。

園庭には大きなプールと、小さい浅い水遊びプールが用意されており、ひとりずつ、大きなプールに職員に抱えられて入る。はじめは「つめたーい」「久しぶりよ」と言いながら、そろそろと歩く程度だったが、徐々に水を蹴ったり、手でばしゃばしゃしたり、腹這いに

なったりと嬉しそう。

浅いプールでは水遊び用具やヨーヨーを使って遊んだり、友達と一緒に水を容器一杯いれたり、大きなプールにいるお友だちめがけて水を掛け合って遊ぶなど思い思いに楽しんでいる。

水に入るのを怖がっていた子は、皆が遊んでいるのをしばらく見ていたが、「入ってみる？」と職員に声をかけられ、職員に助けられながらこわごわ浅いプールに入ると、真剣な顔で職員を見つめていた。

## ◇4歳・5歳合同

### (食事～歯磨き)

4、5歳は合同で昼食をとっている。配膳が済んだあと皆で「いただきます」の挨拶後、職員は子どもの食べる様子を見ながら、献立や材料について説明を始めた。やがて子ども達はそれぞれ同じテーブルの友達と話しが始まると、食べるお口がおろそかになっている子もいる。職員は「〇ちゃん、お話も楽しいけど、お食事もしっかりとりましょう」「お皿を持ってたべようね」「椅子が随分後ろにいつてしまったね」などマナーについてもさりげなく、注意している。全部食べた子どもからお代わりがはじまる。職員から「〇ちゃん、苦手な物全部食べられたね。えらかったね」と言われた子は誇らしげに微笑んでいた。

お代わりを貰いに行く子どもなどで多少ざわついていいる中で、「後、何人分の〇〇のお代わりがあります」「あともう少ししたら、ごちそうさませしょう。そのあとは歯磨きです」と、職員の声が響いた。

食事後、自分の食器を片づけ、歯磨きを始める。仕上げは職員が行っている。食事に時間がかかってしまっていた子は、自分の食器を持って調理室に行き、「ありがとうございました」と調理員に言っていた。「がんばって食べたの。偉かったね」と調理員に声をかけてもらい、急いでクラスに戻り、着替えを始めていた。

## ◇5歳児

### (自由遊び)

朝の会が始まるまでの保育室内での自由遊びでは、オセロゲームやトランプ遊び、ビーズ通しをする子や、机でお絵かきや、切り紙を楽しんでいる子、国旗がついているカードや虫図鑑を眺めている子など、一人一人が思い思いの遊びをしている。トランプをしていた子が「面白いよ、誰か一緒にやらない？」と声をかけると、ビーズ通しをしていた子が「じゃあやろうか」と仲間に加わった。

国旗カードを熱心に見ている子が観察者に「この国旗どこのかわかる？」と聞いてきた。「えー わからないな」「これはねサウジアラビア」「よく知ってるね。すごいね」と答えると、誇らしげに微笑んだ。「これは中国。〇ちゃんが住んでいた国だって」と教えてくれる。「字もよくわかるのね」と聞くと、「保育園で時々習う日があるよ」と答えていた。

### 【受審の動機】

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者の真のニーズを把握し、その想いを日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。開園当初より、同じ評価機関に評価を依頼することで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけたと考えました。開園 7 年目となり、これまで築いた土台に加え、園独自で取り組んでいることを振り返り、課題に取り組むいい機会として捉えました。また常に利用者のニーズに添い、選ばれ続ける施設でありたいと考えております。受審にあたり、職員一人一人が趣旨を理解し、取り組むことが出来ました。

### 【受審した結果】

この受審をきっかけとして、職員全員が自分自身の保育や園全体の運営について、基本的なことから改めて見つめ直すことにより、自己評価の大切さを実感することができました。また、評価結果をもとに、保育の役割・機能といったものを再認識することができ、職員一同なお一層保育内容の改善・充実を図り、より求められる保育園を作っていこうという決意をいたしました。

今年度は特に、前年度指摘事項に意欲的に取り組み、達成率の向上が見られたことは大きな成果でした。また、日頃より利用者とのコミュニケーションを密にとり、信頼関係を築いていくことを大切にしている私たちにとって、職員の対応などをはじめとする利用者満足度が高いという結果は大変嬉しいもので、励みになりました。

今後は、更に地域に根づいた良い園を目指して、現在の園の課題を抽出し、中長期的な展望のもとに園運営の方向性を示し、その実現に向けて努力していきます。

最後に今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。